

2021 Annual Report

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、
10代女性を支える活動を行っています。

一般社団法人 Colabo | 2021年 活動報告書



Colabo



私たちの想い

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。家族との仲は悪く、学校でも理解しようとしてくれる大人と出会えず、街をさまよっていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。ファストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした。

そうした少女少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法な仕事、性搾取への斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。そんな私に声をかけてくるのは、買春者か、危険な仕事か性搾取に斡旋しようとする人だけでした。

それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

それから十数年が経ち、私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少年少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「向き合ってくれる人がいない」「信じてくれる人がいない」という想いが込められているのではないのでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前の日常」です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつなくてよい社会を目指して活動を続けます。

一般社団法人Colabo
代表 仁藤夢乃





2021年度 活動概要

■相談事業

・相談者数	1,672名
・対応件数	18,893回
・面談	2,197回
・同行支援	143回
・他機関連携	1,466件
・医療支援・弁護士による活動	

■夜間巡回・アウトリーチ

・活動回数	34回
・声掛け人数	3,353名
・バスカフェ利用者数	947名

■食事・物品提供

・食事提供	1,535食
・物品提供	1,130回
・『難民高校生』	124冊

■一時保護・宿泊支援

・一時シェルター（日中利用）	601件
・一時シェルター（宿泊）	6名、52泊
・中長期シェルター（一時保護利用）	7名、289泊
・ホテル等での宿泊	61名、232泊

■生活支援

・シェアハウス(中長期シェルター)入居者	10名
・生活支援	617件
・居住支援	利用者1名
・就労支援	179件

■サポートグループTsubomi

・活動回数	172回
・企画展「私たちは『買われた』展」	2箇所で開催

■啓発事業

・講演会	17回、2,385名参加
------	--------------

目次

■私たちの想い	1
■活動概要・目次	2
■相談事業	3
■アウトリーチ事業「TsubomiCafe」	5
■食事・物品提供	7
■緊急時の保護・宿泊支援	8
■生活支援	9
■居住支援・就労支援	10
■医療支援	11
■弁護士による活動	12
■サポートグループ「Tsubomi」	13
■企画展「私たちは『買われた』展」	14
■啓発事業	15
■夜の街歩きスタディーツアー	16
■メディア掲載・キモいおじさん	17
■会員・寄付・物品応援	19
■会計報告	21
■ご支援のお願い	22
■応援メッセージ	23
■関連書籍	25

相談事業

相談者数
1,672
名

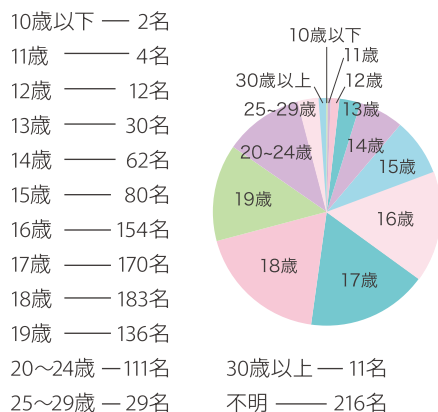
夜の街を巡回し、声をかけて繋がった少女や、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

相談者の属性と現状

相談者数：1,672名(新規1,304名、継続368名)

本人からの相談：1,568名(うち新規1,200名、男性12名) / 本人以外からの相談：104名(友人17件、親15件、親族4件、弁護士4件、教員2件、その他62件)

■相談者の年齢 (本人からの新規相談)

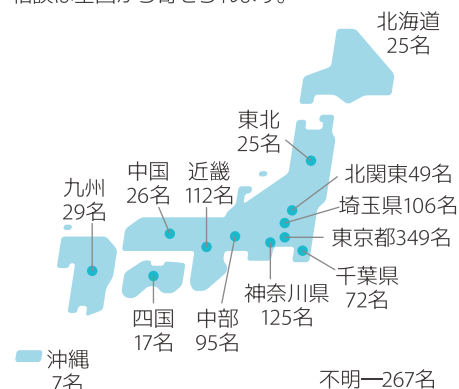


■出会ったきっかけ (新規相談)

SNSを通して	238名
友人の紹介	123名
街で声をかけられて	95名
支援者・知人の紹介	30名
メディアを通して	29名
バスカフェの近くを たまたま通りかかって	14名
授業や講演	11名
HPを見て	5名
「私たちは『買われた』展」	1名
その他	21名
不明	737名

■居住地 (新規相談)

相談は全国から寄せられます。



■相談内容

家族のこと

- ・ 家族関係
- ・ 虐待(身体的/精神的/経済的/性虐待/ネグレクト等)
- ・ 家に帰りたくない
- ・ 家を出たい
- ・ 家出
- ・ 家を追い出された
- ・ 居所なし
- ・ 生活困窮
- ・ 子育て
- ・ 家族や友人の自死

学校のこと

- ・ 高校中退
- ・ 進路
- ・ 友人関係
- ・ 不登校
- ・ いじめ
- ・ 教員からの性被害

性のこと

- ・ 性暴力被害
- ・ 性搾取被害
- ・ 恋人からのDV
- ・ 妊娠・中絶
- ・ 性感染症
- ・ セクシャルティ

その他

- ・ 就労相談
- ・ 労働相談
- ・ 公的機関の対応について
- ・ 借金・金銭トラブル
- ・ 精神疾患
- ・ 自傷行為
- ・ 死にたい
- ・ 薬物等への依存
- ・ 発達障害
- ・ 知的障害
- ・ 新型コロナウィルスの影響による虐待・生活困窮

家が安心して過ごせる状況でないときに、大人に助けを求めても適切に対応してもらえなかったことから、性売買の被害に遭っている少女たちと日々出会っています。過去に児童福祉や警察などの公的機関につながっても適切に対応されなかったことから、不信感を抱く少女たちとの出会いが多くあります。中学生に「児童相談所と関わったことはある?」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と厳しい目つきでバリアを張るような様子で言われたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね?」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

生活が困窮し、生活保護などの福祉制度に繋がっていないながらも虐待を受け

ていたり、うわばきや文具、給食や修学旅行のお金が払えないなどの理由から性売買の被害に遭っていた中高生との出会いや、体調が悪くても「病院に行けない、行かせてもらえない」「親が家に帰ってこなくなった」「家に帰ったら自分の荷物が全部捨てられていて、家にも入れなくなっていた」などの相談も複数ありました。

安心して過ごせる場所を持たないまま、なんとか生き抜こうとする中で、少女は性的に商品化され消費され、性搾取の被害に遭うことが多くありますが、男子は振り込め詐欺などの犯罪に使われたり、少女を性搾取する側として、加害者になることが多くあります。例えば、

ホストになり少女たちに多額のお金を支払わせ、「払えないなら風俗へ」と斡旋したり、一緒に家出している少年少女のグループでも男女間の関係性は対等ではなく、男子が女子に買春者を紹介し、少女に身体を売らせることにより、自分たちの宿泊ホテルを確保することもあります。

虐待や性売買の被害にあった少女たちは、安全を手に入れてからもトラウマなどさまざまな影響と付き合いながら生きていかなければならないことが多く、長い目で暮らしを支える活動の必要性を感じています。しかし、不安定な状態であればあるほど、選択肢が少ない現実と直面しています。

少女たちと共に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。「あなたはほしい？」と問われても、それがわからない状態にあることも多くあります。暴力や支配の関係性の中にいたり、「今日をどう生きるか」に精一杯な状況では、これからのことを考える余裕もありません。見返りを求められることなく、安全に過ごせる場所で、落ち着いて考えられる時間や環境があることや、一緒に状況を整理する人との信頼関係があることで、これからのことを考えることができます。

私たちは、食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、困った時に思い浮かぶ顔になれる関係を築きたいと考えています。

ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

相談を受けた少女への対応：18,893回

■対応手段

LINE	12,596件
面談	2,197件
メール	1,528件
電話	710件
SNS	186件
その他	67件



■同行支援：143回

病院	36件
福祉事務所	35件
弁護士相談	10件
学校	8件
ハローワーク	5件
職場	2件
不動産	2件
警察	1件
その他	44件

■他機関連携：1,466件

■公的機関

福祉事務所（女性相談、生活保護、子ども家庭等）	210件
児童相談所	165件
学校	55件
婦人相談所	7件
警察	6件
保護観察所	1件

■民間団体等

弁護士	549件
医療機関	181件
子どもシェルター	20件
母子生活支援施設	13件
宿泊提供施設	11件

子ども支援団体	9件
児童養護施設	8件
自立援助ホーム	7件
婦人保護施設	5件
学習支援団体	4件
企業	3件
民生委員	1件
その他支援団体（外国人・若年女性・生活困窮者支援団体、福祉施設など）	72件
その他（職場、学校教員、議員、民間奨学金給付団体、地域支援者など）	139件

同行支援から見てきたこと

必要に応じて役所や児童相談所、病院、警察等への同行支援を行っていますが、特に、性搾取の被害に遭ったり、家出を繰り返していた少女たちが公的支援を利用するには高いハードルがあると感じています。彼女たちは、そうせざるを得ない状況を生き延びてきたと私たちは考えていますが、「非行少女」として取り締まりの対象となったり、「問題行動がある」と言われて支援機関に拒まれてしまうことがあります。

性虐待から逃れ、地方からやってきた女の子と警察に行ったら「事件が起きた地元に今すぐ自費で帰って、そちら

で被害届を出すように」と言われたり、ホームレス状態で性売買に関わり生き延びていた女の子が生活保護の申請をした際に役所から「うちでは現在地保護はやっていない」などと違法な説明を受けたり、虐待を理由に保護を求めた高校生を児童相談所が一時保護所に入れ、私語禁止のルールを破ったことなどから、「生活態度が悪い」と罰として体育館を100周させたこともあります。彼女たちに必要なのは、指導や管理ではなく、安心して過ごすことのできる場所や、信頼できる大人との関係性、医療や教育、ケアなどです。教育や福祉に関わる仕事に就く人の中に

も、まだ理解者は少なく、少女たちの背景に目を向けられる大人を増やしたいと考えています。

相談者の状況によって、一時的な対応でいったん困難が和らぐこともあれば、中長期的な関わりが必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあったりする場合では、シェルターを出た後も、家探しから、大家への挨拶、住所変更手続きの手伝い、トラブル対応、病気の時の看病、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労、子育てに関してなど、生活全般を見守っています。

アウトリーチ事業 TsubomiCafe

開催数

34
回

声掛け人数

3,353
名

利用者数

947
名

移動バスによる10代女性無料の夜カフェ。渋谷・新宿で定期的を開催しています。夜の街を巡回し、少女たちに声をかけ、繋がっています。コロナ禍で「お菓子よりも、お米が欲しい」「コスメよりも、下着や靴下が欲しい」など、生きていくために必要な基本的な食品や生活用品を希望する人が多くなっています。



夜の繁華街で出会い、声をかけ、つながる



週に一回、夜の新宿・歌舞伎町と渋谷で無料のバスカフェを開催しています。ピンクのバスとテントが目印のこのカフェでは、食事や飲み物、Wi-Fiや充電

が無料。バスの中では、生活に必要な物品や衣類、コスメやコンドームなどを提供しています。

この活動は、韓国の民間団体の実践を参考にし、2018年10月～2022年3月までに117回開催。11,214名に声掛け、2,568名が利用しています。



夜の街で少女たちを探し、声をかけるのは、性搾取を目的とした人ばかりです。新宿や渋谷などの繁華街では、每晚100人ほどのスカウトが街に立ち、少女たちに「どうしたの?」「仕事探してない?」と声をかけ、さらに買春者も新宿・渋谷それぞれに每晚100人以上いて、少女たちを性的なモノとして扱い「いくら?」と声をかけています。彼らは食事や宿泊場所を提供し、「衣食住と関係性」を与えるようにして近づきます。それは決して「セーフティネット」で



はなく、商品として扱い、性搾取するための手段です。困っている少女たちが支援につながる前に、危険に取り込まれています。

そこで、私たちは10代の女性たちに声をかけ、つながるアウトリーチ活動を行っています。Colaboのシェルターで暮らしたり、

バスカフェを利用したりした10代を中心とするメンバーが「声掛けチーム」としてアウトリーチを担い、「少し前の自分たちと同じような状況にいる子達に、Colaboに繋がってほしい」「変な男について行かなくても、力になってくれるところがあることを知ってほしい」と活動しています。



声掛けチームによるアウトリーチの様子

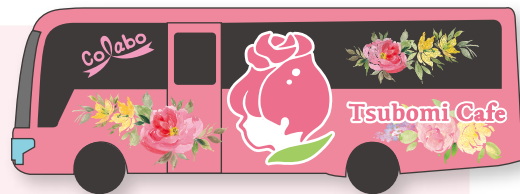
公的支援に繋がらない少女の中には、自分の困りごとに気づいていなかったり、あきらめ感が強かったり、自暴自棄になったりしている人が少なくありません。「大人に諦められた」と感じる経験をしていたり、自己責任論の中で「自分が悪い」と思い込み、声を上げられずにいる人もいます。「相談」や「支援」という言葉や行為に抵抗感を持つ人も少なくありません。

そのため、TsubomiCafeでは「相談」や「支援」を目的としない場づくりをしています。少女たちに利用してもらいやすいように、大人が「してあげる」場所ではなく、「少女たち自身の場所」として、気軽に立ち寄り、セルフサービスで、自由に過ごせる雰囲気大切にしています。



バスカフェ利用者アンケート (2021年6~7月、回答者115名)

利用回数: 1~4回70名 / 5~9回22名 / 10~14回12名 / 15~19回4名 / 20回以上3名



あなたにとって、バスカフェ はどんなところ？

- 話せる人がいる (15人)
一ちょっと大変なときにふらっと来れる。心も日用品も整えられる。どうすればいいかわからなくなったときに行くところ。
- 安心できる (15人)
- 楽しいところ (12人)
- 居心地が良い (12人)
- ご飯が食べられる (11人)
- 居場所 (9人)
- 家に帰りたくないときに行ける (8人) 一避難所。普通の生活が送れるように助けてくれる場所。
- 落ち着く (8人)
- いいところ (5人)
- 似た境遇の人に出会える (4人)
- お家 (2人)
- 暇つぶし (1人)

はじめて来た時、どう思った？

- 話したい人は話す、1人の人は1人っていうスタンスが居やすい
- フレンドリーで居やすい
- 詮索もしすぎない
- 突っ込んで聞いてこないところが嬉しかった
- 雰囲気がいい
- 思ってたより空気が軽くて良かった
- もっと早く知りたかった
- やっと落ち着ける
- かわいい！
- ピンクウウウウ!!!
- シンプルに有難い
- なんでも揃ってて便利
- ほんとに全部無料なんだ！
- すごい！楽しい！
- また来たい
- 皆自由にしてる

スタッフの印象は？

- 明るくて気さく
- フレンドリーで優しい
- サバサバしてる
- 明るくて話しやすいです！
- 無理やり聞き出そうとしない
- ラフで居心地が良い
- 会うと安心できる姉みたいな感じ
- 話しかけやすい
- 毎週行ってるわけじゃないのに顔覚えてくれて髪色変えたりすると気付いてくれる
- 暖かくて威圧感がない！
- 明るい！
- 自然体でいてくれる。変に気を使いすぎたりグイグイ来たりするわけでもなくて、こうしなさいみたいな高圧的な感じも一切ない。個々の時間とか在り方をそのまま大切にしてくれてる感じ。

バスカフェのいいところ・おすすめポイント

- 食品、日用品、服などももらえるものがたくさんある (31人) 一欲しくても買えないものとかが貰えるから生活や心に多少余裕ができる
- 気軽さ・楽しさ (18人) 一フレンドリー。楽しい。気が楽。気軽。気さく。誰にも何も言われず脅威なく自由に過ごせる。何も (行動とか貢献とか) 求められない空間でリラックスできる。食べ物とか服とか「持っていきなよ！」って言うてくれて遠慮しなくて良い雰囲気できてくれる。みんな仲良し！顔を覚えてくれる。ポジティブになれる。
- 同じ境遇の子と知り合える、友達ができる (17人) 一自分と似た環境の同世代の子と話せる。学校だと気を遣われたり引かれたりすることも、バスカフェだと笑い話として話せたりして、それだけでもちょっと楽になる。独りじゃないと思える。
- みんな優しい (15人)
- ゆっくりできる、居心地がいい (15人) 一何もなくてもきいていいと思える。空気感が良い。楽しくおしゃべりしてても静かにしててもいいなって思える場所。ストレスの捌け口になる。息抜きできる。安心して話せる大人がいる状態でいれる。夜に行ける場所がある
- 無料でお金がかからない (14人) 一WiFi・充電器・設備がいい。サービス精神旺盛。泊まる所を提供してくれる。なんでもある！
- 困ったときに頼りになる (10人) 一問題に対して直ぐに動いてくれるから信用できる。力強い。相談事を言ったら一緒に考えてくれる。
- 美味しいご飯がある (9人)
- ピンクでかわいい、空間がかわいい (8人)

食事・物品提供



応援者の方からいただいた衣類、文具、生理用品、生活用品などを少女たちに贈っています。

出会った中高生や、学校や少年院で授業を聞いてくれた少女たちに仁藤の著書を贈っています。

一緒に料理したり、食卓を囲んだりする時間を大切にしています。お腹を満たすだけでなく、自分の状況を整理したり、出会いや関係性づくりの場にもなっています。

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。



困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出をくりかえしていたり、困難を抱えたりしている少女たちの中に、「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と思っている人は少なくありません。その結果、ひとりではどうにもならない事態に発展しているケースもあります。

私たちは、少女たちにまずは「一緒にご飯を食べよう」

「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくりたいと考えています。



「鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない」「誰かが料理している所を見たことがない」という人もいます。ある時「調理されていない野菜や生肉を見たのは数年ぶり」と高校生が言いました。彼女は、妹たちと子どもだけで生活していて、家には包丁や食器もないことがわかりました。「家に食べ物が何もなし」と連絡があり、食料を届けることや、児童養護施設を退所した人、家族が頼れない状況にあるなどする全国各地の少女たち



への食品や生活用品の提供も行っています。Colaboに来ると、ご飯やおかずが持ち帰れるようになっていて、翌日の食事や冷凍保存用として、家族や同居の友人やパートナーに持ち帰る人もいます。



食事の場は「相談」のハードルを下げることにもつながります。困ったときに「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、

女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。

「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「理解しようとしてくれる大人がいたら」という想いが込められています。

私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談してもらえる関係性をつくり、彼女たちがいつでも戻ってこられる「ホーム」の1つとなれればと考えています。



緊急時の保護・宿泊支援

安心して過ごせる場所がない少女が一時的に過ごすことのできる場所として運営しています。2020年度から感染防止対策のため、ホテルでの宿泊支援を強化しました。コロナ禍で状況が深刻化しているため、20代の方にも積極的に声をかけ、宿泊支援を行っています。



(宿泊支援の内訳)

- 一時シェルター：6名52泊
- ホテル等：61名232泊
- 中長期シェルターの一時保護利用：7名289泊

一時シェルター

体を休め、落ち着いて考えられる場所を



安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけてくれるのは体目的の男の人だけだった。そういう人しか自分に関心を持たないと思っていたし、頼れるのはそういう人だけだった」とある中学生が言いました。2011年の団体設立時から、行き場を失った少女たちを代表に藤の自宅に泊めていましたが、もっと気軽に立ち寄れて、自分たちで自由に過ごせる場所を作ろうと寄付を募り、2015年夏にシェルターを開設することができました。

「今の状況を変えたい」と思っている人のほか、公的な保護につながることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる場所がない」という



人や、家出し見知らぬ人の家を転々とする生活を続けながらも「ちょっと休みたい」という人も使える場所。

「家ではゆっくり眠れないから仮眠したい」などの利用もOKとしています。宿泊以外にも、日中のんびりするのに使ったり、パソコンや宿題をしにきたり、キッチンやお風呂や洗濯機の利用も自由にできるようになっています。



必要に応じて、弁護士などと連携し、相談者が安心・安全な場所で生活できるように一緒に考えます。これまで利用した人の中には、

里親のもとで生活をはじめたり、児童福祉施設に入所したり、一人暮らしを始めるなどしている人がいます。しかし、現状の公的制度の中では安定した生活を手に入れられずにいる人も多く、2016年度から、中長期シェルターとして、10代後半～20代前半の女性のためのシェアハウスを始めました。



虐待や性暴力被害等からの緊急的な保護だけでなく、「今日は母親の彼氏に来るから家にいられない」「自宅の電気やガスが止められている間だけ泊めてほしい」「試験期間だけ泊まって朝起こしてほしい」



生活支援

中長期シェルター（シェアハウス）

入居者

10

名

2,076

泊

住まいの提供や、生活支援を行っています。虐待から逃れるために家を出て、ネットカフェやホテル、知らない人の家、性搾取業者の用意した寮などを転々としながら1年以上過ごしていたという少女もいます。



中長期シェルターを「10代後半～20代前半の女性を支えるためのシェアハウス」として5物件15部屋運営しています。各家には、鍵付きの個室が

3部屋とリビングやキッチン、風呂、トイレなどがあり、初期費用なしで入居でき、はじめの3か月は家賃無料（それ以降は月額利用料3万円～、状況に応じて相談）。家具家電、Wi-Fiあり、お米食べ放題。

入居者の主体性を尊重し、ルールは毎月のミーティングで一緒に決め、食事やゴミ出しなどは自分たちで行います。Colaboは彼女たちが主体的に生活を送れるようにサポートし、今後の生活に向けて一緒に考えます。

ネットカフェや誰かの家を転々とする生活では、持てない荷物や衣類は季節ごと、移動するごとに捨ててきたため、出会った頃は、カバンやぼろぼろのキャリーケース1つでやってく



る少女たち。睡眠もほとんどとれず、緊張や不安の中に常にいる生活を送ってきたため、鍵付きの個室に感動したり「本当にいいの?」と言ったりすることもあります。

まずは自分の部屋で休んで、一つひとつ暮らしを作ってもらえたらと考えています。それまでは「今日どう過ごすか」でいっぱいだったところから、生活が安定することで、過去の生活を振り返ったり、受けた被害や自分と向き合う時間、これからのことを考える時間ができて、辛い時期を過ごすこともよくあります。ここで暮らす間に、自身のケアをしたり、学校に通ったり、仕事をしてお金を貯めたりし、一人暮らしなど、それぞれの描く次の生活を目指します。



私たちは、シェアハウスを出てからも、いつでも戻って来たり、顔を出したりできる関係でありたいと思っています。



シェアハウスミーティングの様子

生活支援

617

件

- 家庭訪問 ————— 141件
- 食事作り ————— 134件
- 手続きサポート — 115件
- 金銭管理サポート — 93件
- 掃除サポート ——— 76件
- 生活環境整備 ——— 56件
- 緊急対応 ————— 2件



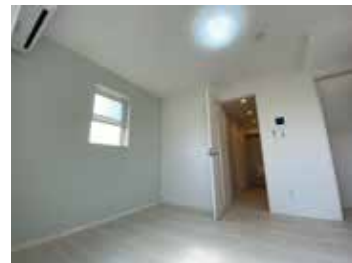
食事づくり

居住支援

入居者

1
名

2022年3月、大型の助成金をいただき、新たに8部屋の個室アパートを建設しました。入口はオートロックで宅配ボックスあり、各部屋には二口コンロ、ウォシュレット、浴室乾燥機、Wi-Fi、冷蔵庫、洗濯機、レンジ、ケトル、炊飯器、ローテーブル、タンス等、家具家電30万円分付き。保証人不要で入居できます。部屋のデザインや雰囲気にもこだわりました。こうした活動がモデルとなり、「施設」でなく「自分の家」として住める場所を増やしていけたらと考えています。アパート完成後、すぐに1名が入居しました。



就労支援

179
件

- 情報提供 ————— 54件
- 就労体験 ————— 33件
- 手続きサポート ——— 31件
- 面接練習 ————— 28件
- 書類作成 ————— 23件
- 仕事紹介 ————— 10件

就労を目指す少女たちに、資格取得や求人に関する情報提供や、履歴書の書き方や面接の練習などを行っています。Colaboと繋がりのある企業や商店等と連携し、アルバイトとして就労体験の機会をつくり、実際に就職に至ったケースもありました。今後も協力者や協力企業を増やしていきたいと考えています。



面接練習



就労体験

医療支援

利用者
55
名

受診回数
99
回

(医療支援の内訳)

- アフターピル：19回分
- ピル：153ヶ月分
- ミレーナ(子宮内避妊器具)：1回
- その他、性病検査等：計69万4,010円分

2021年度、婦人科医や整骨院と連携し、女の子たちに医療を届ける活動を強化しました。Colaboとつながる少女たちには、虐待や生活困窮を背景に体調が悪いときに医療にかかることが当たり前ではない生活をしている人が多いです。避妊に失敗したり性暴力被害にあった後、アフターピルがほしくてもお金がなかったり、病院に行っても、医師から「なんでそんなことしちゃったの？」と責められることがあります。自分を守るための行動をしようと思っているのに怒られたり、「親の同意がない」と言われたりすることもあります。

そこで、協力を申し出てくださったクリニックと連携し、女の子たちに「避妊に失敗したり、生理痛が重かったりして悩んでいる女の子へ。ピルの服薬やアフターピルの処方について相談に乗ってくれる連携病院があります。お金の心配はいりません。必要な人は気軽に声をかけてね」と呼びかけています。

2021年度は、55人が99回の婦人科予約をし、69万4,010円分の医療支援をしていただきました。内訳は、アフターピル19回、ミレーナ（子宮内避妊器具）1回、保険適用ピル延べ100か月分、自費ピル53か月分です。ピルは30人に処方し、17人が継続中です。その他、痛み止め、妊娠検査、エコー検査、性感染症検査、血液検査、性感染症治療等も自己負担なしで提供していただきました。無料のピルや婦人科受診をきっかけに、女の子の生活状況や、DVや性売買の被害に遭っていることがわかり、介入するきっかけにもなっています。

また、国の補助金を活用し、Colaboとつながる女の子たちの整体治療費を支援しました。女の子たちの体は「ガチガチだ」と先生たちから言われます。虐待や性搾取被害などの影響から、長い間緊張状態で暮らしてきて、今もその影響を受けているからです。こうした医療支援を通して、Colaboの他にも頼れる大人がいること、自分を大切にしたいと想っている人がいることに触れる機会にもなっています。



「ピル無料プロジェクト」で連携して

いくつかの女性支援団体に避妊、妊娠や医療のことで困った方がおられたらご紹介くださいとお声がけしたところ、Colaboさんだけが患者さんをたくさんご紹介くださったので、本当に積極的に活動しておられるのだなあと感じました。ご紹介いただいた方達にはピル、緊急避妊ピル、性感染症検査、治療、子宮がん検診などを患者さんには自己負担が生じない形で行わせていただいています。一人一人の女性に対してとても丁寧で継続的にアプローチされていて、私どもとしても安心して医療を提供することができています。最近ではColaboの方々とも顔が見える関係になって、ますますやりがいを感じられます。引き続きよろしくお願いいたします。

丸の内の森レディースクリニック
院長 宋美玄

弁護士による活動

利用者

26
名

弁護士の活動件数

247
件

弁護士の活動時間

380
時間

Colaboでは、自分たちだけでは出会った女の子の権利保障が容易ではないと思われるときに、弁護士に本人の代理人になってもらい、活動してきました。具体的には、福祉事務所に不適切な対応をされた女の子について、児童相談所等と交渉したり、捜索願が出ている場合の警察への対応や、親対応などを弁護士にしてもらってきました。Colaboでは、女の子側に立って関わることを徹底しているため、女の子を保護した場合でも、親にColaboが関わっていることは伝えず、親への対応が必要なときは、児童相談所や弁護士にお願いしています。

私たちは「Colaboの弁護士」ではなく、「女の子自身の代理人」としてその子の権利保障のために活動する弁護士が必要だと考えています。2021年度、内閣府・東京都の「DV被害者等セーフティネット強化支援」事業で弁護士費用を確保し、子どもの代理人として活動する弁護士を増やすことにも力を入れることができるようになりました。これまで自分たちだけでやるのがほとんどだった本人との面談、児童相談所等とのケース会議にも、必要に応じて弁護士に入ってもらいようになり、親対応、学校、福祉事務所、警察、婦人保護施設、児童福祉施設、医療機関、民間団体との調整や連携など、4人の弁護士が247件、380時間の活動を行いました。



「子どもの代理人」としての弁護士の活動の必要性和、費用の国費化について

子どもは保護の客体ではなく人権・権利の主体です。しかし、自分自身で権利行使することは、大人でも簡単なことではありません。Colaboにつながる子たちの例では、家庭で虐待を受け、自分で児童相談所に保護を求めても保護してもらえなかったという場合、その子は保護を受ける権利が侵害されているということになります。そこで、弁護士が子どもの代理人となって児童相談所と交渉し、しばしば不合理な対応をする児童相談所と闘って、子どもの権利保障を実現することが必要になります。

しかし、子どもが弁護士費用を支払えるはすがありません。子どもが公費で弁護士による法的援助を受けることができる国もありますが、日本では、子どもが法律扶助制度を利用することはできません。そのため、日本弁護士連合会では、私たち弁護士から毎月特別会費を徴収して、「子どもに対する法律扶助制度」を作っています。本来は子どもの代理人弁護士の報酬は国費で賄うべきですが、国の制度はそう簡単には変わりません。そんな中、Colaboが子どもの権利を守るために働く弁護士の存在が必要だと実感し、弁護士費用を内閣府の予算から出してもらうことに成功しました。これは、子どもの代理人報酬を国費で賄うということが日本で初めて実現したということであり、画期的なことです。今後もColaboでの実践を通して子どもの代理人弁護士の必要性を訴え、全国に広げるため制度化に向けた活動をしていきたいです。

弁護士 川村 百合

サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。それぞれが自分の状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの関係も生まれています。

活動回数

172

回



Colaboとつながる少女たちがつながり、共に過ごし、活動する場。同じような経験をしてきた人たちと出会うことで自分の状況に向き

合い、整理するきっかけにもなっています。合宿などの体験活動を通して社会問題について学んだり、誕生日や成人、卒業や就職などのお祝いを一緒にしたり、クリスマスや年越しを一緒に過ごしたりしています。児童買春の実態を伝える「私たちは『買われた』展」や講演会でのスピーチなど、経験を伝える活動も行っています。2019年度からは性暴力被害の実態を訴え、問題を言葉にするYouTubeの番組『シリーズ キモいおじさん』もスタートしました。



性売買経験当事者・日韓オンラインミーティング

■アウトリーチ活動：配布グッズ作成、バスカフェ運営準備、夜の街での声掛け ■伝える活動：企画展「私たちは『買われた』展」展示物作成、取材対応、YouTube番組『シリーズ キモいおじさん』撮影

■その他の活動：シェルター増設準備、寄付物品仕分け・整理、事務作業

■季節のイベント：誕生日会、成人祝い、クリスマス会、就職祝い、授賞式への参加

■勉強会：性売買経験当事者との日韓合同ミーティング、ウポボイ（民族共生象徴空間）訪問、他団体視察

■合宿：長野夏合宿（川遊び、BBQ、満蒙開拓団平和記念館訪問、性売買経験当事者日韓交流）、北海道・宮城・熱海・沖縄旅行（コロナ禍のため個別対応）、年越し合宿、伊豆春合宿（花見、動物園、ぬいぐるみ作り、焼肉、いちご狩り、海遊び）



成人祝い



夏合宿



合宿でぬいぐるみ作り



活動拠点・開設準備



10周年記念誌発送作業

女の子からのメッセージ
ネットなどで大人たちによく言われること

『買った大人も悪いけど、お金欲しさに売った女の子も悪い』

仕方なかった。お金が欲しかった。嘘でも愛してほしかった。悪いと思ってんだけど、大人にお金あげるからと言われ、援交に浸ってしまった。JK（女子高校生）、若いからという理由だけで私の体を買う人がいた。若い人の体が何故いいのかわからない。何も知らないJKにSEXを教え楽しんでた。

『援交をするような女性はろくでもない人が多い。だから、貞操を軽く考えている尻軽な女性が援交をする』

本当に、お金に困ってる人に向けて言えるのか？買われた側だけが、どうしてこんな風に言われなきゃならないのか、わからない。

『俺だったら援交する女子高生に説教するけどな』

は？ 買う側の大人に説教してください。SEXをしたいがために、私に可愛いとか好きと言っていた大人たちがいる。今は、男の人に「可愛い」って言われると体目的なのかと思ってしまう。どうして、自分がこんなことになってしまったのかもわからない。本当に心が叫んでいた時に、私の体を買った大人がいた。お金を貰い、おいしいご飯を食べて、ストレスを発散しようとした。正直、後悔してる。この経験を通して、汚い大人もいると考えるようになった。子どもを利用して、自分たちの欲望を満たし、平気な顔をして犯罪を犯す。その汚い大人は、意外と近くにいる、子どもや奥さんがいた。犯罪だって、皆わかってた。どうして？ 私の心を返してください。

(Hさん 17歳)



企画展「私たちは『買われた』展」

2016年8月～

開催数

24

箇所

開催日数

89

日間

来場者数

12,442

名

中高生世代を中心とする当事者がつながり、声を上げることで、自分たちの権利を回復し、児童買春の現実を伝え、「売春」のイメージを変えたい。これまで表に出ることができなかった「買われた」私たちの声を伝え、今も苦しんでいる少女たちや、かつて似た苦しみを経験した女性たち、すべての女性に勇気を与えたいと、Colaboとつながる14～26歳まで39人のメンバーが立ち上がり、写真や体験談、手記、日記「大人に伝えたいこと」をテーマにした作品を作成しました。2021年度は「私たちは『買われた』展」仙台実行委員会と、認定特定非営利活動法人ウイメンズハウスとちぎの主催で仙台と宇都宮で2回、5日間開催。816名が来場しました。

売春している中高生について、
どんなイメージを持っていますか？

- 快楽のため
- 愛情を求めて
- その場限りの考えで
- 遊ぶお金がほしいから
- 優越感に浸るため
- 自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った。だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
- 正直、そんな人と関わりたくないと思う
- どうしてそこまでやれるのか、理解できない

ある大学の授業で
学生たちに投げかけると、
こんな言葉が返ってきた。

当事者のAは言った。

「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。
もう、そんなことでは傷つけなくなった。」

後日、このことをColaboにつながるメンバーで共有し
「イメージを変えたい!」と、この企画に至りました。

「行くところがないとき、声をかけてくるのは男の人だけだった。他にご飯を食べさせてくれる人も、泊めてくれる人もいなかった」(16歳・高校生)

「親も頼れる大人もいない、ひとりで生きていくしかないと思っていた。買った大人への怒りとかいうよりも、買われる前の背景があることを知ってほしい。家族や学校、施設で虐待されたり、ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。そうでもないかと、生きられなかった。」
(20歳・高校生)

「Colaboには、同じような経験をしたお姉さんがたくさんいて、昔同じような経験をした女の人から支援が届いているのを知って、自分だけじゃなかったって安心した。考えてもらうきっかけになったらいいし、何か感じてもらえるだけでいい。」(15歳・中学生)



企画展参加メンバーと

日本では児童買春について「援助交際」などの言葉で、少女たちが気軽に足を踏み入れるものというイメージで語られてきましたが、そこにあるのは「援助」や「交際」と言えるようなものではなく、「支配」と「暴力」の関係性です。企画展を通して、金銭を介することで性暴力を正当化しようとしたり、買う側の気軽さには目を向けない大人がたくさんいることにも気づきました。

一方、企画展を通して、「私も同じ」と性搾取の被害に遭っていることを相談してくれる少女たちとの出会いが続いています。声を上げた少女たちの体験に共感し、「これまで、苦しんでいるのは自分だけだと思っていた。自分を責めていた。変わることも、抜け出すこともできないと思った」と、14歳の少女が言いました。来場者アンケートでも、「買われた」経験をもつ10～60代の女性たちからの感想を300通ほどいただきました。かき消されてきた声があることを改めて感じています。

私たちが、いま、ここに生きていることを知ってほしい。

各地で企画展を開催したい団体を募集中 / パネル貸出しについてはお問合せください

啓発事業

講演会
17
回

参加者
2,385
名

講演依頼を受け付けております。
HPからお問合せください。

「少女たちの置かれた現状」「性搾取の実態、加害者の手口」「児童福祉の現状」「女性の人権」など、10代を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。夜の街歩きツアーでは、少女たちを狙う加害者たちの実態や現状を伝え、大人の責任を共に考えます。

中高生向け



家族や友人との関係、居場所や進路について、性のこと...色々なことに悩む中高生世代へ、「虐待や性暴力被害」「対等な関係性について」「女性の人権や女性差別について」「貧困問題について」など、幅広くお話ししています。困ったときに自分を責めたり、あきらめたりしないで良いように、また、困っている友達に気づいて、手を差し伸べたり、暴力や差別を目にしたときに声をあげられる人になるために、どうしたらいいのか？相手を尊重するとはどういうことか？一緒に考えます。

大人向け



今、日本の少女たちはどのような状況に置かれているのか、活動の中から見える実態をお話しします。虐待や性暴力被害を生み出す社会的な構造や加害者の存在に目を向け、大人たちの責任を問い、困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、背景には何があるのか、私たちには何ができるのか、一緒に考えます。

2021年度講演実績

- 学校（生徒向け） 一橋大学、明治学院大学、東京女子大学、大阪暁光高等学校、埼玉県立蕨高等学校
- 行政・公的機関 鳥取市中央人権福祉センター、瑞穂市民生委員児童委員協議会、神奈川県人権教育推進協議会、埼玉県東部家庭児童相談室連絡協議会、徳島県性暴力被害者支援連携協議会
- 民間団体 ふえみん婦人民主クラブ、日本軍「慰安婦」メモリアル・デー、「池内さおりさんと仁藤夢乃さんのトーク集会」実行委員会、一般社団法人マザーズ・コンフォート
- 教育関係 大東学園東和会、埼玉県高等学校教職員組合、大分県教職員組合

公益財団法人 社会貢献支援財団 第56回 社会貢献者表彰を 受賞しました。

受賞コメント：コロナ禍で女性の貧困や自殺がこれまでにないほど深刻になっていますが、芸能人がラジオでやむを得ない事情で女性が性風俗で働くことを待ち望むような発言をするなど、性搾取を容認し、女性を性的に消費し、暴力にさらすことを楽しみにするような発言が堂々と言えてしまう社会を変えることは緊急の課題です。これからも、現状を変えるために多くの方が活動を共にしてくださることを願います。



「困難な問題を抱える女性支援法」 が制定されました。

2022年5月、日本で初めて女性支援の根拠法ができました。新法制定に向けて、「困難な問題を抱える女性への支援のあり方に関する検討会」やメディア等を通して問題提起を続けてきました。66年間改正されていなかった女性差別的な法律である売春防止法が一部改正されて成立した新法は、まだ性搾取の実態を踏まえたものになっているとは言えないため、今後も実効性ある法律になるように働きかけていきます。

夜の街歩きスタディーツアー

参加者募集中! 参加希望の方は、HPよりお問合せください。



夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。目で見て肌で感じていただき、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。8名以上での申し込みで、好きな日程で調整可能です。 ■参加者：教員、保護者、児童福祉、医療、警察、行政関係者、弁護士、議員など

ツアー参加者の満足度

2019年度
アンケート回答者36名

非常に良かった — 84%

よかった — 16%

- 少女を取り巻く危険や実態を知ることができた — 100%
- これまで気づくことのなかった現状を知れた — 100%
- 青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった — 78%

今まで、自分が見ようとしなかったことで、現実を受け止めていなかったと痛感しました。

意識して歩かないとわからない現状を知ることができました。関心を持たないことによって、近くにあるのに気づかずにいた現状に、おそろしい気持ちになりました。自分ができることを考え、行動しようと思いました。所要所で説明してくれたので、より一層わかりやすくあっという間に時間が経ちました。現実として受け止めることができました。(40代女性 高校教員)

参加者の声

若い女性たちを大人たちがいかに食べ物にしているか、まざまざと感じました。

この社会を作っている大人の責任について考えさせられました。また、支援するには女の子たちが何を求めているのか、どんなことを感じているのか知ることが大事であることがよくわかりました。私は行政の立場で仕事をしているので、弱い立場にある人たちを踏みつけるのではなく、尊重する社会を作っていけるよう、できることをしていきたい、私たちが変えていかなければと思いました。向き合う機会になりました。

(40代女性 公務員)

私が普段仕事にしている福祉や教育は、届けたい人にこそ届いていないという実態がよくわかりました。

これまで頭で理解していたつもりでしたが、実際に目の当たりにすることで、問題の重大さを実感しました。参加して本当に良かったです。また、仕事のみでなく自分の日常の行動もこの問題と地続きであることがわかりました。これまで女の子たちが商品化されている様子を見て、違和感はなんとなく感じていましたが、それを言葉にすることや周りの人と話すことはありませんでした。ツアー以降、周りの人と話すようになりました。自分にできる支援を具体的に検討していきます。(30代女性 会社員)



アウトリーチ支援者養成講座

街歩きスタディーツアーの参加者のみにご案内しています。座学やワークショップ、「家出体験」などを通して、少女達が夜の街に出る背景を想像し、気持ちに寄り添えるようになることを目的とした研修です。一人ではなかなかできない家出体験や研修を通して、どんな声掛けや支援が必要か、自分の役割・できることは何か、一緒に考えます。研修を修了された方を対象に、アウトリーチ活動へのボランティア募集情報をご案内します。開催情報はお問い合わせください。

メディア掲載 (一部)

テレビ

2021年

- 4月 TBS・Nスタ「「生理の貧困」に広がる支援」
中京テレビ・キャッチ「名古屋市も生理用品の無料配布開始 若い女性の実態とは」
- 5月 TBS・サンデーモーニング
- 9月 宮城テレビ・ミヤギnews every
「虐待や貧困で「買われた」少女の展示会」
NHK仙台「私たちは「買われた」展
虐待や貧困の実態知って」
- 10月 仙台CATV・みんなのテレビ
「私たちは『買われた』展」
BS11「報道ライブ インサイドOUT」



新聞

2021年

- 4月 西日本新聞「Colabo代表仁藤夢乃さん講演
「福祉の視点で寄り添って」」
- 6月 しんぶん赤旗「五輪やめコロナに全力」
- 8月 朝鮮新報「友好への種を撒こう①」
「痛みでつながる温かさ、強さ」」
河北新報「「買われた」少女被害深刻」
- 9月 東京民報「若年女性を救う政治に
ジェンダー平等 仁藤さん池内さんらトーク」
- 10月 毎日新聞「若者が...と言うけれど
仁藤夢乃さんが問う「大人はどうですか」」
毎日新聞「社会的養護先での性被害」
- 11月 朝日新聞「家庭内暴力や虐待
行き場失った少女たち」
下野新聞「『買われた』少女の叫び」
毎日新聞「「買われる」背景知って」
読売新聞「買春被害 展示で伝える」
東京新聞「週のはじめに考える
痛み知る人を代弁者に」

朝日新聞デジタル

- 「「コロナ感染で家から離れられた」暴力、虐待...
居場所のない少女たち」
- 毎日新聞「分岐点 これからのコロナ対応：
コロナかも 所持金は1000円 家に帰れない少女」

2022年

- 2月 毎日新聞「婦人保護事業 転換へ
困窮、DV、性暴力...対象拡大」
毎日新聞「声をつないで：66年変わらぬ「売春防止」
から脱却 新たな女性支援法が必要な理由」
- 3月 朝日新聞「子どもや女性、むしろむのほはSNSの
見知らぬ「誰か」重大事件にも」
毎日新聞「記者の目：困窮女性支援の意義と課題
多様性に応じた受け皿を」



WEBメディア

2021年

- 6月 AERA dot.「「50代が14歳と性交」発言の立憲議員は
「怒鳴るように高圧的」招かれた大学教授が激白」
- 7月 フェミニスト・ウェブ・ジャーナル・イルダ
(韓国版)「コロナ禍で窮地に追い詰められる10代
女性「性搾取」深刻化」
- 10月 WEZZY「仁藤夢乃さんが指摘する買春者に都合の
良い日本社会の現状「JKビジネス」「パパ活」
性搾取を不透明化する言葉」

詳しくは下記サイトへ。ダウンロードや記事を閲覧できるものがあります。
<https://colabo-official.net/about/media/>



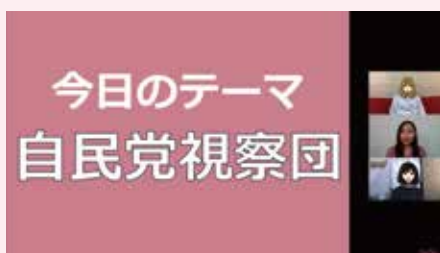
YouTube番組『シリーズ キモいおじさん』

この番組では、学校、職場、街中など、あらゆる場面で出会う「キモいおじさん」のキモさやモヤモヤを流さず、そのキモさはなんなのか、問題を言葉にしていきます。Colaboとつながる10代のメンバーと共に性差別や性暴力、性搾取の実態を告発しています。ぜひご覧ください！

こちらから動画を
ご覧いただけます



第1回『セクハラおじさん』（2020/3/18公開）
中高生から集まった「キモいおじさん」エピソードは2日で109枚。痴漢や性暴力被害を訴える10代女性たちの声も。



第2回『自民党視察団』（2020/5/3公開）
2020年4月、バスカフェ視察に訪れた国会議員が、アウトリーチを担う声掛けチームの10代のメンバーの腰を触る事件が起きました。当日現場にいたメンバーと、視察団の言動やセクハラ行為、謝罪の仕方などの問題を言葉にし、分析。Colaboの抗議文に対する国会議員からの回答書も採点！回答書には、8つの嘘がありました。



第3回『風俗で出会ったキモいおじさん』
（2021/11/15公開）
10代のメンバーと共に、風俗で出会ったキモいおじさんがよく言うセリフをトーク。買春を人助けだと思っている加害者の多さなどを告発。総選挙振り返り、選挙応援で出会ったキモいおじさん、買春パパ活歴のある人が議員になることの問題も解説しています。



第4回『性売買を合法化する「AV新法」』
（2022/5/18公開）
日本で初めて、金銭取引を伴う性交を契約のもとで有効とする法律になるかもしれないAV新法。4月28日に骨子案が出てから条文が示され、修正案が出るなかでどのように変化してきたのか。AV出演被害当事者と共に、被害の実態を語り、法案の問題点を解説しています。



会員・寄付・物品応援

♥ サポーター会員

1,647名(2,575口、1,545万円)

♥ 資金寄付

- 個人の方から 1,010名(1,533件、3,430万3,606円)
- 企業・団体から 42件 (275万3,168円)
- ソフトバンクつながる募金を通しての寄付 525件 (83万7,977円)
- 講演会場での寄付 2会場 (13万2,188円)

♥ プロジェクトへの寄付

- 『難民高校生』を贈ろう 23名45冊分 (9万円)

♥ シェルターオーナー

80名の方に106日分、495万円の運営費を支えていただきました！

- 1日オーナー (58名) : UncleSL様、磯京子様、えほんみち主宰 早川裕様、河村敏栄様、工藤正則様、佐伯恵吾様、坂井恵理様、佐々木望様、Sam Corn様、社会福祉法人藤雪会 職員互助会こんぺいとう様、杉山由加里様、山下寿々子様、ライゾウ&パグーズ様、他46名様
- 2日オーナー (7名) : 新井寿美様、N.O様、銀河の果てまで孝子ファン様、他4名様
- 3日オーナー (6名)
- 5日オーナー (3名) : いまお志乃様、他2名様
- 7日オーナー (1名)
- 10日オーナー : 服部寛様、他2名様
- 11日オーナー (1名)
- 12日オーナー (1名) : 木口怜史様

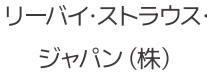
♥ 物品寄付

一般寄付: 675回
Amazon: 703回
合計: 1,378回

- 物品寄付 186万562円
(Amazon欲しいものリストからの寄付等金額換算できるもの)
- 金券 307万3,153円分
(切手、商品券、Amazonギフトカードなど)

♥ 企業からの物品寄付

24社 (41件、2,134万9,100円)
株式会社ドクターシーラボ / 株式会社ワールド /
株式会社ファンケル / 株式会社ケンズコーポレーション /
ジェクス株式会社 / 株式会社NANDA JAPAN / リグルジャパン /
メテオAPAC株式会社 (Ty Japan) / オッペン化粧品株式会社 /
株式会社JIMOS・株式会社ナック / Rethink PROJECT /
株式会社フラン / 株式会社ドミノ・ピザジャパン /
株式会社ディディエ・ジャポン /
ては〜とホールディングス株式会社 /
リーバイ・ストラウス・ジャパン (株) / プーマジャパン株式会社 /
dacha / Office kiko / 他5社

想いのつまったご支援、ありがとうございました！

♥ 助成金で支えていただきました！



公益財団法人 日工組社会安全研究財団
広域安全事業助成「虐待、性犯罪被害女子の
保護・自立支援及びシェルター運営事業」



Rethink PROJECT「SDGs貢献プロジェクト」



公益財団法人日本財団「遺贈基金」



公益財団法人パブリックリソース財団
休眠預金等活用法に基づく新型コロナウイルス
対応緊急支援助成事業
「コロナ禍の住宅困窮者支援事業」

♥ お弁当・食品提供で支えていただきました！

セカンドハーベスト・ジャパン（認）
観音山フルーツガーデン、
あーちのめし処



♥ 以下の物品を募っています

- 商品券、カタログギフト、図書カード
- 書き損じハガキ、未使用切手
- iPhone、ノートパソコン等
- 衣類、制服、靴（新品のみ）
- 日用品（生理用品、リップクリーム、制汗剤、メイク用品、マスクなど）
- 食品、農産物：お米や果物、お肉、野菜等の定期的なご支援、歓迎です！
- Amazonほしいもののリストで、必要な物品を掲載しています。



2021年度 会計報告

活動計算書 自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日 [税込] (単位:円)

【経常収益】			
【受取会費】			
サポーター会員受取会費		15,450,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金(個人)	44,409,509		
受取寄付金(企業団体)	24,940,245	69,349,754	
【受取助成金等】			
受取助成金		46,605,960	
【事業収益】			
相談事業収益	9,541,000		
巡回事業収益	11,700,000		
基礎的支援事業収益	17,812,047		
居場所づくり事業収益	726,460		
自立支援事業収益	3,054,220		
情報提供事業収益	1,554,030	44,387,757	
【その他収益】			
受取 利息	803		
雑 収 益	455,814	456,617	
経常収益 計			176,250,088

【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料 手当(事業)	18,881,801		
法定福利費(事業)	2,398,258		
通 勤 費(事業)	443,528		
人件費計	21,723,587		
(その他経費)			
売上 原価	13,550		
給 食 費	3,956,070		
教 養 費	149,650		
支 援 費	25,783,970		
業務委託費(事業)	338,071		
会 議 費(事業)	74,802		
旅費交通費(事業)	3,324,829		
車 両 費(事業)	200,465		
通信運搬費(事業)	1,374,368		
消耗品 費(事業)	6,592,935		
消耗什器備品(事業)	3,655,764		
修繕費(事業)	213,400		
水道光熱費(事業)	1,549,073		
地代 家賃(事業)	10,390,053		
広告宣伝費(事業)	45,402		
新聞図書費(事業)	226,990		
減価償却費(事業)	3,342,534		
保 険 料(事業)	597,290		
租税 公課(事業)	2,474,046		
研 修 費(事業)	355,820		
支払手数料(事業)	4,776,818		
雑 費(事業)	905,472		
その他経費計	70,341,372		
事業費 計		92,064,959	

【管理費】			
(人件費)			
給料 手当	9,169,560		
法定福利費	952,074		
通 勤 費	427,652		
福利厚生費	17,600		
人件費計	10,566,886		

サポーター会員数は、2020年度の1,449名(12,902,000円)から1,647名に増加しました。一方で寄付額は、定額給付金を寄付される方が多かった2020年度(125,288,497円)からは半減しました。

一時シェルターやシェアハウスの運営、バスカフェなどのアウトリーチ活動、新宿歌舞伎町拠点開設などのための助成を、3つの民間助成団体より受けました。

2020年度の22,835,842円より増加しました。新型コロナウイルス流行の影響を受け、講演会や街歩きスタディツアー、「私たちは『買われた』展」などの開催が思うようにできない状況が続いており、事業収益の多くを東京都の「若年被害女性等支援事業(26,000,000円)」受託金、「DV等被害者支援交付金(8,682,000円)」が占めました。今後の状況変化に合わせ、受託以外の事業も本格的に再開できればと考えています。

(その他経費)			
業務委託費		814,000	
印刷製本費		292,350	
会 議 費		42,009	
旅費交通費		262,105	
通信運搬費		719,064	
消 耗 品 費		1,365,194	
消耗什器備品費		34,320	
水道光熱費		113,182	
地代 家賃		1,188,000	
新聞図書費		1,830	
保 険 料		11,840	
諸 会 費		60,000	
租税 公課		69,200	
支払手数料		2,222,306	
雑 費		1,500	
その他経費計		7,196,900	
管理費 計			17,763,786
経常費用 計			109,828,745
当期経常増減額			66,421,343

【経常外収益】	
経常外収益 計	0

【経常外費用】	
経常外費用 計	0
税引前当期正味財産増減額	66,421,343
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	66,351,343
前期繰越一般正味財産額	188,070,322
次期繰越一般正味財産額	254,421,665

この内1億円を「シェルター居場所増設職員雇用積立金」として積み立てました。将来、夜の繁華街に女の子達が駆け込み、宿泊できる場を構えたいと計画しています。

指定正味財産増減の部	
【受取助成金】	100,000,000
【一般正味財産への振替額】	0
当期指定正味財産増減額	100,000,000
前期繰越指定正味財産額	0
次期繰越指定正味財産額	100,000,000
次期繰越正味財産額	354,421,665

公益財団法人パブリックリソース財団よりアパート建設のための助成を受けました(1億円)。使途が指定されており、全額資産となる助成であるため、「指定正味財産増減の部」として計上しました。

ご支援のお願い

私たちの活動は、みなさまのご支援に
支えられています。サポーター会員や、
シェルターオーナーになって活動継続の
ための仲間になってください！

サポーター会員

年会費 / 1口 : 6,000円

私たちの理念・活動に共感いただいた方に、1口6千円/年
からの会費で活動を支えていただいています。
会員の方々の支えがなければ、活動を継続できません。
ぜひ入会し、活動を共に作る仲間になってください！

■会員特典：活動報告会へのご招待や、街歩きツアー
などの研修割引

『難民高校生』を贈ろうプロジェクト 1口 : 2,000円

中高生や少年院で出会う少女たちに仁藤の本を贈ってい
ます。1口で1人の少女に届けることができます。

シェルターオーナー

1口 : 30,000円

1口で1日運営する費用がまかなえます。365日開設を目
指し、支援を募っています。

活動資金の寄付 口座振り込み、またはクレジットカードでのお支払いが可能です。

●クレジットカード・口座振込による寄付



Colaboに直接ご寄付いただけます。
活動全般を支える資金のご寄付で
応援お願いいたします！

■ゆうちょ銀行

(ゆうちょ銀行〈振替先選択で「記号番号」から振込の場合〉)

記号) 10150

番号) 91829801

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

■ゆうちょ銀行

(他金融機関・ゆうちょ銀行〈振替先選択で「店名」から振込の場合〉)

店名) 〇一八 (ゼロイチハチ)

店番) 018

口座) 普通 9182980

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

■三菱UFJ銀行

渋谷中央支店

口座) 普通 0363448

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

●つながる募金



↑ Softbankの
スマホからご利用
料金とまとめて寄付



つながる募金

ソフトバンクのスマホやPCから、携帯電話
の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付
ができます。



← どなたでも可能
(クレジットカードで寄付)



食品・物品の寄付

随時必要な物をHPに掲載しています。
送付先はお問い合わせください。



ほしいものリストからの寄付

サイトに必要としている物品を掲載しています。
Amazonからの購入でColaboに届く仕組みです。
<http://goo.gl/24g9zt>

団体概要

【名 称】 一般社団法人Colabo

【設 立】 2011年5月 (2013年3月に法人格取得)

【役 員】 代 表 理 事 仁藤 夢乃

副代表理事 稲葉 隆久

理 事 奥田 知志 (牧師、認定NPO法人抱樸 理事長) / 川村 百合 (弁護士)

齋藤 百合子 (大学教授) / 細金 和子 (婦人保護施設慈愛寮 元施設長)

監 事 中村 剛 (弁護士)

応援メッセージ

私たちも
応援しています！



小島 慶子 エッセイスト

「外をふらついているのは素行の悪い子どもなのだから犯罪に巻き込まれても自業自得。性的搾取や性暴力の被害にあっても自己責任。そもそも本人が遊ぶお金欲しさに望んでやっていることなのでは？」こんな意見を、あなたはどう思いますか？街にしか居場所のない子どもたちがいます。経済的な事情や、家庭でのネグレクトや暴力など、様々な理由で帰る場所のない子どもたちがいます。身を守るための知識がなく、頼れる人もいない子どもたちを利用したり、買ったりする大人たちが後を絶ちません。そんな子どもたちが頼れる場所を増やそうという仁藤さんの取り組みに賛同します。



稲葉 剛 立教大学大学院客員教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事

相談窓口を作って、待っていても、支援を必要としている人はなかなか来てくれない。これは経済的な貧困や社会的な孤立など、様々な困難を抱えた人たちを支える活動の中で、幾度となく言われてきたことです。なぜなら、「誰かに相談をして、助けてもらった」という経験を持ったことのない人は、相談をすることによって自分の状況が良くなると思えず、窓口まで足が向かないからです。では、どうすればいいのか？待ちの姿勢をやめて、彼ら彼女らのもとに出かけていくこと。それがアウトリーチと呼ばれる活動です。居場所がなく、夜の街をさまよう子どもがいれば、自らそこに出かけていく。仁藤夢乃さんたちはこれまで地道なアウトリーチを続けてきました。2019年春、Colaboとも協働し「東京アンブレラ基金」を立ち上げました。都内のさまざまな団体が「今夜、行き場がない」人に「緊急宿泊支援」を実施した際、費用の一部を補助する仕組みです。Colaboの活動を応援し、さらに連携を進めていきたいと考えています。



麻木 久仁子 タレント・国際薬膳師

貧困、虐待、暴力、人間関係など様々な理由で安心安全な居場所を失い、社会からその存在を切り離され、街を彷徨うことを余儀なくされている少女たちは、心も体も傷ついています。自分が受けた傷や被害の責任が自分にあるかのように感じることも多いそうです。こうした少女たちの自尊心は、深く深く切り裂かれてしまうことでしょう。仁藤夢乃さん率いるColaboは少女たちの隣にいて、同じ時代に同じ街で生きる「仲間」として手を差し伸べています。かわいそうだから助けるというよりも、仲間だから支えるということ。現実的な自立の手立てを提案すると同時に、ゆえなく傷つけられた自尊心を回復すること。仁藤さんの揺るぎない信念を感じます。そんなColaboに共感し、心から応援します。



© Keiichi SUTO

桐野 夏生 作家

仁藤夢乃さんとColaboの、街にバスを出すという素晴らしいアイデアに、心底感心しました。実際に街に出て行って、居場所のない、そして行き場のない少女たちに、手を差し伸べること。それも一時的な支援ではなく、彼女たちの心を引き受けること。言葉にするのは簡単でも、それがどんなに大変で、責任のある仕事であるかは、やってみないとわからないことです。私は、仁藤夢乃さんの信念と行動力に、心から尊敬の念を持っています。そして、でき得る限り、支援していきたいと思っています。



水原 希子 俳優

ふと目に留まった仁藤夢乃さんのツイートをキッカケに、Colaboの存在を知りました。家族から虐待など、様々な理由で身に危険を感じ、家に帰る事ができずに居場所を失った女の子達は、性被害の恐怖にさらされる。そんな女の子達に夜の街にバスとテントを張り、自ら声をかけてサポートをしているColaboの活動に感銘を受けています。そして今、コロナの影響で虐待の増加、そして性被害に巻き込まれてしまっている女の子達が増えている現状があります。こんな辛い事に巻き込まれてしまう女の子達を1人でも無くしたい。私も自分の活動を通して、1人でも多くの女の子達が安心して過ごせる様に、彼女達の未来のために一緒に立ち上がります。引き続き、Colaboの活動を応援しています。



安藤 優子 ジャーナリスト

仁藤さんの少女たちを助けるための活動のすごいことは、常に発想が徹底して少女たちの目線、立場にあることです。そしてきわめて現実的です。少女たちがなぜ自らを危険な目にさらさなくては生きていけないのか、どうしてそうなってしまったか、そんな少女たちがほんとうに必要なとしているものはなにか、彼女は過去の体験から同じ目線で寄り添いながらその答えを見つけようと頑張っています。私は仁藤さんたちのチャレンジ、活動を応援いたします！



松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

私はこれまで精神科医として、たくさんの「自分を傷つけずにはいられない」少女たちと出会ってきました。彼女たちは夜の街をあてどなく漂流し、様々な危険な目に遭いながら、いつ死んでもおかしくない生き方をしていました。そして、みんなきまって助けを求めるのがとても下手くそでした——一番しんどい状況のときには病院に姿を見せず、嵐が過ぎ去って少しだけ楽になった頃に、「すごく大変だった」と報告しにやってくる——そんな感じです。それでも、来てくれるのはよいのです。気になるのは、途中からずっと姿を見せないままにいる子たちです。あの子たちは今どこで何をしているのか——。こうした少女たちを救うには、病院や行政だけでは不可能です。夜の街に直接出向き、彼女たちと同じ目線、同じ言葉で語りかけ、手を差し出してくれる人が必要です。私は、そのようなColaboの活動を応援しています。



© Maki Ishii

石内 都 写真家

少女という一瞬をどうやっていきるのか、すべての女にとって大きな通過点だ。少女は常に分断され孤立し、いたぶられる。それをはねのける力は一人の少女の中には無い。家族も社会も国家も少女を一人の人間としてみていない。その少女を理解出来るのはかつて少女だった私達だ。少女が少女であるがまま自然でいられるように。



横田 千代子 婦人保護施設いずみ寮寮長/全国婦人保護施設等連絡協議会会長

Colaboの存在・働きは、居場所を失った女性たちにとっては心強い味方です。私たちも女性支援をしています。行政機関（女性相談センター）で措置された女性たちのみの支援です。根拠法を売春防止法として設置されている「婦人保護施設」です。私たちは居場所のない女性たちを直接支援することが出来ません。いつも歯がゆく思っています。Colaboの活動も、本来、私たちが踏み出さねばならない事業だと思います。行政の後ろ盾もなく今にある活動まで積みかさねられた働きに心から敬意を表します。「受け止めてくれる場所がある」「今晚一晩泊まれるところがある」大事な支援です。被害から身を守ります。Colaboの働きと連携できるシステムが欲しいです。小さな灯が大きな社会の動きにつながる日を待ち望み、祈ります。

関連書籍



難民高校生 ― 絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル

(英治出版 2013/3/25、ちくま文庫 2016/12/7 文庫化、台湾でも翻訳)

一私は渋谷で月25日を過ごす”難民高校生”だった。仁藤が自身の経験を綴った単著。ちくま文庫での文庫化時には、出版時には書けなかったことも含め、あとがきを20ページ追加。「大人になったら、本書こう！そんで、うちらみたいに悩んだり、こんな必死に生きてる高校生がいるってことをみんなに伝えて、わかってくれる大人を増やそう！それで、今のうちらみたいに悩んでいる子をどうにかできるようになろう！」かき消されてきた、それぞれの声。



女子高生の裏社会 「関係性の貧困」に生きる少女たち

(光文社新書 2014/8/7)

「未成年が容易に騙され売春へ取り込まれている」「女子高生を使った人身取引が横行している」と世界

から指摘される日本社会。Colaboの活動を通して、出会う少女たちと共に「JKビジネス」の実態をはじめて世に告発した一冊。



性暴力被害を聴く 「慰安婦」から現代の性搾取へ

(岩波書店 2020/9/26)

性暴力を語ることは、被害者の心身に大きな苦痛を与え、困難を極める。韓国や日本で、その被害をどう聴いてきたのか。仁藤は10章を担当し、「慰安婦」問題と現代の性搾取のつながり、「慰安婦」にさせられた女性たちとの出会いについて書いています。



性売買のブラックホール 韓国の現場から当事者女性とともに打ち破る

(ころから株式会社 2022/5/27)

日本の植民地支配に起源をもつ韓国の性売買。その実態を伝え、「性売買防止法」制定運動に携わり、「性売

買問題解決のための全国連帯」で女性たちの脱性売買を支援する活動に携わってきたシンパク・ジニョン氏の単著。仁藤が「日本の性売買の現場から」とし解説を担当。性売買が女性に対する暴力であることをわかりやすく伝える一冊。



路上のX

(朝日新聞出版 2021/2/5)

桐野夏生さんがColaboのことを取材して描いた小説。文庫版の解説を仁藤が担当。Colaboとつながる少女たちの日常がリアルに描かれています。

以下の本にも仁藤が寄稿しています。

日本のフェミニズム (河出書房新社 2017/12/20)

子どもの人権をまもるために (晶文社 2018/2/8)

私にとっての憲法 (岩波書店 2017/4/22)



10周年記念誌

活動する人・支える人 特集2021

2021年5月に活動10周年を迎え、記念誌を作成しました。これまで活動を共にしてきた方々と10年間のあゆみを振り返り、スタッフの想い、Colaboの社会的意義とこれからをまとめました。



◀こちらからダウンロードできます

近日出版!

『当たり前の日常を手に入れるために 一性搾取社会を生きる私たちの闘い』 (影書房)

2022年度、Colaboとつながる女の子たちのインタビューを収録し、Colaboが女の子たちとどのように活動をつくってきたのか、性搾取を容認してきた大人社会の責任を追及し、当事者運動や当事者主体の支援のあり方について考える一冊を出版します!

Colaboスタッフ活動スローガン 「一人ひとりが、活動家」



私たちColaboは「支援団体」ではなく、虐待や性搾取被害の経験当事者の少女・女性たちを中心とした「当事者運動」です。そのため、創設時から、少女たちを「支援対象」としてではなく、共に声を上げ、社会をつくる主体であり、仲間とってきました。Colaboのスタッフは、出会う少女・女性たちと、支援する/される関係ではなく、「共に考え、行動する」ことを大切にしています。

Colaboとつながる少女たちや、すべてのスタッフ、ボランティア、寄付者の方々が、社会を変える当事者だと思っています。私たちは出会う少女・女性たちの状況に応じて、その方の生活や人権が保障されるよう共に考え、行動したり、当事者意識をもって性搾取・性売買の問題に取り組めます。

2021年度、新宿歌舞伎町に新たな活動拠点をオープンしました

女の子たちがくつろげるラウンジや、仮眠できるベッドルームも作りました。



家にいられない、帰るところがない時、無料でホテルに宿泊できます。



ピルの服用やアフターピルの処方について、力になってくれる連携病院があります。

お金の心配はいりません。
必要な方ご本人から、気軽にご連絡ください。



2022年度、脱性売買相談所として「**女性人権センターKEY**」を立ち上げました。10代の少女だけではなく、性売買を辞めたいと考えている女性を支える活動にも力を入れていきたいと考えています。また関連組織として、当事者たちで「**性売買経験当事者ネットワーク灯火(とうか)**」を立ち上げました。灯火では、性売買が女性に対する暴力で性搾取であることを前提にし、性売買の実態を伝え、現状を変えるための当事者運動を行っています。

会員になって活動を 支えてください！

年6,000円(月500円)から継続的に活動を応援していただくサポーターを募集しています。私たちの理念・活動にご共感いただいた方、ぜひご支援よろしくお願いいたします。

会員特典

- ①女の子の想いや日々の活動を伝えるColabo通信をお届け(不定期)
- ②活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

シェルターオーナーに なりませんか？

虐待などを背景に少女が家に帰ることができない、家にいられないとき、駆け込める場所として開設しています。シェルターは、みなさまからのご寄付で運営しています。1口で1日の運営費をまかなえます。オーナーとして、ご希望の方は報告書にお名前を掲載させていただきます。ご支援よろしくお願いいたします。

1口: 30,000円 ...1口で、シェルターの1日オーナーになることができます。365日開設を目指し、支援を募っています。

Twitter



@colabo_official

Instagram



@colabo.official

講演のご依頼・お問い合わせ

スマホ・携帯はこちらから



一般社団法人 Colabo

URL <https://colabo-official.net/>

Mail info@colabo-official.net

